

社会保障制度改革の議論の場に 看護の声を届けよう

高階 恵美子 参議院議員



参議院社会保障と税の一体改革に関する特別委員会にて質疑

涼やかな風の心地よい季節となりました。今夏は九州・沖縄の広い範囲で「これまでに経験したことのない豪雨」による被害が相次ぎました。被災された皆様に衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、いこの現場で救護・救護並びに復旧等の業務にあたっておられる仲間の皆様の日々のご苦労に対し、改めて深い感謝の意を表します。

さて国家の政治情勢は、内政の停滞に加え、外交の面についても一層の不手際が続いており、新たな局面へと進む転機を迎えているように感じています。

9月8日に閉会した今年の通常国会は、現政権の不適切な運営による不正常状態が頻りに繰り返され、会期を延長してもなお極めて低い法案成立率でした。しかも、政府提出の閣法よりも

議員立法の成立割合の方がはるかに高いという結果だったので、こうした点をとって見ても、政府の政治力そのものの低さが露呈していると酷評する声さえ聞かれるところです。

苦しい時ほど冷静に、
未来のために。

攻防の続く中、6月には法案の提出者である与党内部の意見対立が極限に達し、空中分解しそうになりました。国政のかじ取り役である政権の母体が、社会保障・税一体改革の是非を巡って自己矛盾に陥ったうえ、トップが無理を通そうとしたために、組織的統制が利かなくなったのです。

当然のことながら、与党として他の政党に協議を持ちかけ意見調整するこ

止め、実行していかなければならないという強い気持ちも湧いてきます。

現場第一、看護の声を届けよう。

立法によって年内には、次代の社会保障の理念・骨格、サービス内容について審議し合意形成を図る場が正式に設置されることとなります。私はこうした場に看護職が参加し、いこの現場で求められていること、改善・解決すべき課題、将来に向けて創り上げていかなければならぬしくみなどを、リアルに説得力を持って伝えていくことが必要だと考えています。

私たち看護職の技は、これからの日本社会を力強く牽引する貴い財産。だからこそ、その一人ひとりが楽しく心豊かに堂々と、持ち味を発揮できる環境づくりを進めていきたいと考えています。



社会保障と税の一体改革に関する特別委員会にて野田佳彦総理に質問

浸透力を高め、
仲間を増やしていこう。

また、人の生きる力を支える・守るという看護の使命を果たすうえで欠かせない仲間づくりや、理解者を増やす努力もますます重要になってくるでしょう。

例えば、前述の一体改革に関わる議論では、子育てや少子化対策が焦点となりました。社会保障制度とは、改めて言うまでもなく、社会保険、社会福祉、地域保健・公衆衛生、公的扶助から構成されています。子育てや少子化対策は、このうちの柱で保障していくべきでしょうか。

わかりやすくするために、児童福祉、母子保健、学校教育……と言い換えてみましょう。現行の社会保障制度における子育てや少子化対策の多くは、保健・福祉による手当てです。医療・介護・年金などの社会保険方式による応益負担とは異なっています。

子育て・少子化対策を柱の一つに据える改革を行うとの意味は、すなわち公的な支出全体に占める配分額を増加させるということ。ですから私たちは、結果として対象年齢の人々への給付額がいくら増えるのかを、厳しくチェックし、その効果を確認しなければなりません。

国会でこの点を質問したところ、改

ともできない深刻な機能不全の状態でした。限られた時間内に事態收拾をはかり、突破口を見出さなければならぬ火急の折、有効な打開策を提案できない政府を前にして、痺れが切れそうになる日もありました。

それでも、せめて大改革への第一歩を踏み出すところまでは、薄氷のように脆い現政権が崩壊しないよう支えあおうではないかと、政党を超えた議員等が意を律して務めた後半日程でした。こうして丁寧すぎるほどの手続きで進められた社会保障・税一体改革関連8法案の審議は、参議院でも実質8時間以上を費やし、8月10日に可決・成立しました。

参議院議員の席をいただいてから2年が経ち、これまでも得難い経験をさせていただいて参りましたが、今夏



自民党女性議員座談会「女性が考える国土の強靱化について」にて

革前後で、15歳未満への給付額は現行の年60万円から70万円へ、生産年齢層では現行の年30万円から40万円へ、それぞれ年間の一人当たり給付額を増やすとの回答を得ました。

抽象的な表現や漠然とした言い回しだけでは確認がつかめませんから、実際の変化額と具体的な実施方法を追及していくことも大切だと考えています。

看護職一人ひとりが専門職として貢献し続けるためには、元気の源でもある家庭が盤石で、家族がつながりなく暮らせることが重要です。その時に、教育や子育て、介護など、どうしても周囲の誰かの手助けが必要なことが出てきます。こうした点について、課題を語り合い、共に改善策を打ち立てていく、協力し合える仲間づくりが、ますます重要だと思っております。